

第94回企画展「とりホネ展」がスタートします！

鳥は、軽い体で空を飛び、空中や地上、水中で体を素早く回転できるしなやかな体つきをしている一方、ツメやくちばしなどの硬い構造も合わせ持っています。このような体の特徴は、どのような骨のパーツで成り立っているのでしょうか。

今回の企画展では、鳥の博物館がこれまでに収集・作成した骨格標本を通して、それぞれの鳥が環境やエサに対応して体つきを変えてきた歴史と、骨が持つ美しさについて紹介します。

展示期間：2025年7月12日(土)～11月24日(月・祝)



企画展ポスター

イベント情報

「夏の遊びと研究大集合！2025」のお知らせ

毎年恒例の夏休みの工作イベント「夏の遊びと研究大集合！2025」がスタートします。鳥をテーマにした5つの工作を週替わりで楽しめます。夏休みの自由研究のヒントになるかも！？参加無料、予約不要です。ぜひご来館ください。詳細は博物館ウェブサイトのイベント情報をご覧ください。



↑博物館 HP



過去のイベントの様子

開催日時：2025年7月20日～8月31日の日曜日(13:30～15:00)

利用案内

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分
(最終入館午後4時)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、館内整理日、
年末年始(12/29～1/4)

	区分	個人	団体
入館料 (当日有効)	一般	300円	240円
	高校生・大学生	200円	160円
3館共通入館料 (1か月有効)*	一般	500円	
	高校生・大学生	400円	

- ・入館料免除の方①70歳以上の方 ②障害者手帳等をお持ちの方(介助者1名まで)
入館料免除の対象の方は証明できるものをご提示ください
- ・中学生以下は入館無料

*白樺文学館、杉村楚人冠記念館との共通券

●お問い合わせ：我孫子市鳥の博物館

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3

☎: 04-7185-2212 FAX: 04-7185-0639

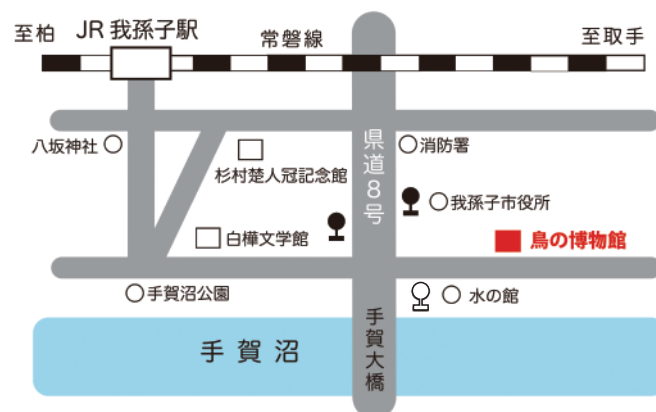


交通案内

JR 我孫子駅南口バス停より市役所経由
バスで「市役所」下車、徒歩5分

天王台駅北口バス停より、アイバスで「水の館」下車(平日のみ運行)

自動車利用の方は地図をご覧ください(駐車場無料/大型バス駐車可)



あびこ鳥だより

2025
No.1

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.67



- ・特集「鳥インフルエンザの標本収集への影響」
- ・手賀沼の鳥類調査結果
- ・第94回企画展「とりホネ展」がスタートします！
- ・「夏の遊びと研究大集合！2025」のお知らせ

表紙の鳥 ウグイス

「鳥インフルエンザの標本収集への影響」

昨年度の冬、千葉県内では東部地域などで家禽や野鳥の鳥インフルエンザ感染が多発し、対応レベルが最高の「3」に引き上げられました。博物館では野外で死亡した鳥の死体（^{へい}斃死体）を収集し、剥製標本を作っています。今回は、当館が収集した個体がウイルス検査の対象となったことについて取り上げます。

鳥インフルエンザとその検査体制について

鳥インフルエンザは、主にカモ類を自然宿主としており、感染個体の呼気や排泄物の他、感染個体が捕食されることで他の個体に感染が広がります。そして、鳥の間で感染を繰り返すうちに感染力や致死率が上昇するおそれがあります（高病原化）。特に冬期は、北から多くのカモ類が渡り鳥として日本へ南下して越冬することから、越冬鳥と生息場所が重なる鳥や捕食者、さらには家禽などの飼育鳥にまで感染が拡大するおそれがあり、注意が必要です。

鳥インフルエンザが養鶏場で発生すると、場内での集団感染や他地域への拡散を防ぐために、一度に何万羽という鶏が殺処分となるほか、周辺の養鶏場からの鶏肉や卵の出荷も停止されるなど、甚大な損害が発生してしまいます。ウイルスが養鶏場に持ち込まれることを防ぐには、感染を早期に特定し、他地域への拡散を食い止める必要があります。それには異変の早期発見が重要で、飼育鳥の場合は突然死や様子がおかしい個体がいなか確認し、野鳥の場合は野外で複数羽が同じ場所で死んでいる等、不自然な死に方をしていないか確認します。そして、その中に検査優先種（ウイルスを保有しやすい種や発見しやすい種など）が含まれている場合は、死体の抗原検査や遺伝子での検査を実施します。さらに、水鳥が集まる湖沼の水や排泄物からの検査も行われます。

当館で収集した個体の検査

今年の3月中旬、鳥の博物館にオシドリのメスの斃死体が持ち込まれました。オシドリは検査優先種1（最優先種）に該当しているため、千葉県に簡易検査（抗原検査）を依頼しました。そして、簡易検査は陰性だったものの、環境省で追加の遺伝子検査を行うことになり、そこでも陰性の結果が出て、4月中旬に無事、当館へ返却されました。万が一陽性が出た場合は、我孫子周辺の養鶏場へ影響が及ぶおそれがあったり、斃死体が焼却処分になってしまったりするため、一安心でした。しかし、検査優先種の場合には、検査を行っていなかった従来に比べ、標本を受け入れるまでに時間や手間がかかるようになりました。



検査の対象となった、オシドリのメスの斃死体
（写真提供：脇水 徳之）

皆様へのお願い

鳥インフルエンザについて、皆様にご協力をお願いしたいことは、早期発見のための情報提供です。お住まいの地域で、冬に複数羽が同じ場所で死んでいた、不自然な死に方をしている野鳥を見かけたりした際は、検査優先種かどうかに関わらず、まずは管轄の自治体の担当部署（我孫子市では生活衛生課）にご連絡を頂けると幸いです。それから、野鳥の生活場所から人を介してウイルスが拡散されてしまうことは避けなければなりません。鳥インフルエンザの発生地域では、不用意に鳥やその排泄物に近付いたり、鳥を呼び寄せたりしないほか、野鳥観察と同じ日には、動物園などの飼育施設に行かないようにし、他地域での野鳥観察は控えるなど、ご配慮をお願いします。

鳥類調査

学芸員が毎月1回行っている手賀沼の鳥類調査結果

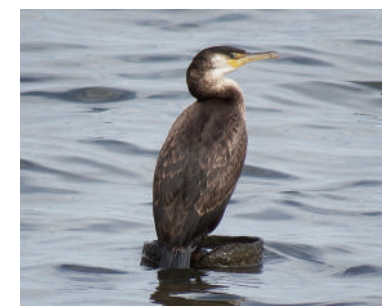
科名	種名	12月	1月	2月	3月	4月	5月	総計
カモ科	トモエガモ	1	15	0	23	0	0	39
	オカヨシガモ	7	31	21	20	4	0	83
	ヒドリガモ	377	322	131	50	20	0	900
	カルガモ	369	556	180	307	29	16	1457
	マガモ	574	1260	398	243	4	0	2479
	オナガガモ	46	142	65	2	0	0	255
	コガモ	216	211	120	87	87	0	721
	キンクロハジロ	0	1	0	2	0	0	3
	ホシハジロ	4	0	0	1	0	0	5
	スズガモ	2	0	0	0	0	0	2
	ミコアイサ	6	3	1	0	0	0	10
クイナ科	クイナ	3	0	1	1	2	0	7
	バン	1	1	2	2	2	0	8
	オオバン	139	105	53	101	45	4	447
	ヒクイナ	1	0	0	1	0	0	2
カイツブリ科	カイツブリ	31	32	18	12	11	4	108
	カンムリカイツブリ	227	44	14	12	5	2	304
	ハジロカイツブリ	29	1	3	1	0	0	34
チドリ科	コチドリ	0	0	0	0	0	2	2
シギ科	タシギ	0	0	2	1	0	0	3
	イソシギ	1	0	0	0	1	0	2
カモメ科	ユリカモメ	76	78	69	9	0	0	232
	セグロカモメ	6	2	6	1	0	0	15
	コアジサシ	0	0	0	0	0	3	3
	カモメ科種不明	0	0	0	0	1	0	1
ウ科	ウミウ	0	1	0	0	0	0	1
	カワウ	127	85	54	130	126	56	578
サギ科	アオサギ	16	4	16	24	18	8	86
	ダイサギ	7	0	1	3	5	0	16
	チュウサギ	0	0	0	0	2	0	2
	コサギ	17	3	3	4	7	3	37
ミサゴ科	ミサゴ	1	3	2	3	0	1	10
タカ科	ハイタカ	0	0	1	0	0	0	1
	トビ	1	0	2	3	3	0	9
カワセミ科	カワセミ	9	4	2	5	4	2	26
カラス科	ハシボソガラス	8	1	19	0	0	0	28
ツバメ科	ツバメ科	0	0	0	0	0	2	2
セキレイ科	セグロセキレイ	2	0	0	0	0	0	2
14種	38種	2304	2905	1184	1048	376	103	7920

外来種	コブハクチョウ	11	13	8	14	9	7	62
-----	---------	----	----	---	----	---	---	----

調査日：2024年12月14日、2025年1月25日、2月14日、3月10日、4月15日、5月14日



カンムリカイツブリ（12月）



ウミウ（1月）



バン（3月）



コブハクチョウ（4月）



コチドリ（5月）